

絵画入門

腕を上げて展示会に出品

学童の頃以来、絵筆とは無縁に暮らしてきた。が、ふとした拍子に絵を描いてみたいという気が湧いた。それが、今年の3月。偶然といえば出来過ぎだが、そのころ穴生学舎の絵画入門コースを知った。思いと募集がうまく合致してから、早くも6ヶ月。白い紙が鮮やかな色で立体化され「すごーい」だの「うまーい」だのという声が徐々に増えてくるのは、とても嬉しいことだ。我々のクラスはそういった雰囲気のクラスだ。

松川先生の指導のうまさには定評のあるところだが、その導きに応じて腕を上げていこう。そして、満足のいく作品を仕上げ、展示会に出品しよう。今からとても楽しみだ。



熱心に個別指導する松川先生(左端)

文化伝承

興味深い講義が目白押し

女性が男性の倍以上在籍するコースだが、女性はいずれも元気で美人ぞろい。教室内はいつも明るく、笑顔の絶えることがない。昼食時は各班ごとに対面し、和やかな雰囲気はまた格別。だが、和んでいるばかりではない。これまで、源平壇ノ浦合戦と武将たち・漆の特性・芦屋釜の里での八朔の馬づくりなど、興味深い講座が目白押し。特に、校外学習で芦屋町を訪れたが、小さな町にもかかわらず、歴史と伝統に支えられた「芦屋町」であることを再認識させられた。



一生懸命に「八朔の馬」作りに挑戦

これから「布ぞうり」づくりを習うが、幼いころを思い出させるもので、今からとても楽しみにしている。

国際情報

フランス人やドイツ人講師も

文字通り「国際的」なコースです。例えば、フランス人講師・ティエリ先生の第一声「ボンジュール」。柔らかだが響きのある声を聞いただけで、非日常の世界に引き込まれます。ドイツ人講師・ニーデラ先生の場合、先生の目から見た日本や日本人観は、そのまま文化論や人類学へと発展していきそうです。いずれも流暢な日本語で、言葉の壁は全く感じさせません。日本人の先生方も、いずれもその道の権威ぞろいで、世界経済や貧困問題など、深く考えさせられることばかりです。



熱のこもったフランス人講師ティエリ先生(左端)の講義

英会話

少しずつでも英語に慣れたい

16名と数こそ少ないが、その分まとまりが良く、和気あいあいのコースです。授業は、今まで学校で習ってきたものと違い、とても実践的で日常に役立つ会話です。中岡先生は元キャビンアテンダントだった方で、素敵なスタイルとファッションはいつも私たちに魅了してやみません。少しずつでも英語に慣れて、ペラペラとはいかないまでも、海外旅行で会話できるほどの度胸がつけばいいなあ~と思っています。



中岡先生



元キャビンアテンダントの中岡先生の流暢な英語が圧巻

- 雄(健康スポー)
- 入門)藤岡昌
- 眞知子(写真)
- 活情報)溝口
- 岡本睦彦(生)
- (健康管理)
- 話)幸カツヨ
- 由美子(英会)
- 際情報)森川
- 貫千壽彦(国)
- 一(絵画入門)
- 伝承)村上陽
- 美佐代(文化)
- キヨ子・城野
- を学ぶ)川村
- 恵子(アジア
- ラス)豊島千
- 本美恵子(コ
- 域ふれあい)西
- 杉木孝子(地
- 身体)健康)
- 谷靖夫(心と
- 史に学ぶ)盛
- 折本洋子(歴
- (実用書道)
- 境)弥永恭平
- (暮らしと環
- ター)増田勝
- づくり)サポ
- 本領子(健康
- 熊懷春代・橋

当 集 編